《ロンドンからのたより（両親宛）》 ・1974b
～グロスタープレイス綴れ模様：その2～

1974年4月17日

お父さま＆お母さまへ

こちらでは「復活祭（イースター）」の休暇中でして、私は殆ど閉じこもって本を読んだり、レポートを書いたり過ごしておりましたが、そろそろ人々が再び忙しく働き始めた今日、しばらく曇っていたお天気がまたパァーと明るく華やいだのを見て、意を決してSussex（サセックス州）へ遠出してきました。英国の南部海岸地方です。一人でロンドン郊外より遠くへ行くのは初めて。お目当ては「アランデル城」です。ガイドブックで、

川あり湖あり牧場ありのところだっていうので惹かれて訪れてみたのですけれど。本当に雰囲気のいい、落ち着いた街でした。駅から城門までの道路をぶらぶらと歩きながら、澄んだ田舎の空気を胸いっぱいに吸いながら、徐々に興奮してきました。イースター明けだからどこも観光客はサァーと引けた頃で、それでもアランデル城の周辺は訪れた観光客でまだまだ賑わってました。アラン川の畔では地元の人々がぶらぶら犬を連れて散歩していたりで、そうした日常的な気晴らしをここしばらく私は忘れていたことに気づかされたのです。

城そのものも、大概の旧城って威圧的でなにやら湿っぽくてジワーッと寒々しい気分になるのだけど、このアランデル城はどことなく気品があり、しかも絢爛豪華な室内装飾やら調度品の類が見応えがありました。内庭もよく手入れされていて、春の花々も今や蕾も開かんばかりという具合でなんとも嬉しい限りでした。

面白いことがあったの。城の入り口で観覧入場料40ペニーを払ったわけ。さらに中に入ると豪華な衣装が陳列してある「特別展示コーナー」があり、それを見るのには6ペニー追加料金が要るということなのね。私が＜一人分を下さい＞って言ったら、その場にいた守衛さんが私に子どもの切符（3ペニー）を手渡してくれたの。でも、一瞬あちらもふと子ども一人ってのはおかしいと思ったのだろう。＜幾つかね？＞って訊くので、私も可笑しくなって、＜27歳ですけど・・＞って応えたら、そのおじさん、自分の勘違いに大笑いしちゃって、私の手を握って、なんて言っていいか解んない、マゴマゴした状態で・・。私も内心、子どもの切符をもらっても構わないけどさ、小柄だけど27歳なんだよなあ、と自分でも思わず可笑しくなって、一緒に笑っちゃったのです。

それから、《ご婦人のみ》という表示があって、3階を指すので、なにかしらと思ったら、ご婦人用トイレだったのです。それが何とも変わっていて、とってもおしゃれな体裁の、日本の高級料亭にあるような厠を想い出した。それに昔の貴婦人が使ったトイレを使っていると思ったら、ちょっと恐縮しちゃうじゃない！城の3階なのに、ちゃんと水洗なのです。感激でしたわけ・・。

城の塔をも上ってきたの。ひじょうなる防備体勢で驚いちゃったけど。石とコンクリートの狭い螺旋状の階段を昇ってゆくと、塔の天辺では、本当に辺り一面視界が360度サァーと開けていて、敵がいつどこから来てもすぐ分かり、防戦できるというわけなのですから凄いの。

その眺めたるもの、実に豪華版でした。牛や馬やらがごろごろとしている牧場と、くねくねとした川のつながりという風景で、高いところに居るって感じがちょっと足が竦んで怖かったけど、まことにいい景観なのでした。

さて、それから城壁の外側をぶらぶら散策して、牧場の辺りをうろついたあと、気侭にソフト･クリームを舐めたりして、大変にご機嫌なひとときでした。

海岸の近くにせっかく来ているのやからと思い、アランデルから一番近いリトルハンプトンという海水浴場を訪れてみました。ごく当たり前の、なんでもない処でした。久し振りで海を見ましたが、日本海のような深みのある蒼々した海の色ではないのが不満だったの。ついつい無いものねだりしちゃう･･。

それに日没を見たかったのに、海の水平線の彼方へと沈んでゆくのじゃなくて、反対の丘の方にお日さまがあって、あれあれ面白くないなと思ったのでした。でもやはり夕刻の8時頃になると綺麗な夕焼けで、空一面が真っ赤でした。日頃都会のど真ん中に居ると、お日さまって居るのやら居ないのやら忘れていましたけどね、再び見て安心しました。が、夜汽車ってのはよくありません。何となく家へ帰るって錯覚をしちゃうのです。帰省した折など、お父さまが「東舞鶴駅」に車で迎えにきてくれていたんだとやら、次々に想い出されて･･。そんな、ちょっと侘しい心境でしたもので、棒みたいになった脚をベッドの上で休ませながら、お父さまが編集した民謡のテープをまた聴きました。お父さま、いやに若々しい、機嫌のいい声やなあと思いました。では、いずれ又。

さよなら　　千鶴子より

1974年4月20日

お父さま＆お母さまへ

錦鯉のカレンダーやら絵やら、またまた仰山な品々の小包を受け取りました。お金を使わせてしまい、誠にすみませんでした。

鯉の絵は、おっとりとした、いい絵でしたね。どっかで見覚えのありそうな。昔から鯉は日本画の画題の一つではあったのでしょうね。‘気韻生動’というのでしょうかしら、わざわざ幻想的にぼかして描かれてある。でも、今ひとつ『愛鱗会』の全国品評会で優勝トロフィーを獲得できるような錦鯉ではないのが残念よね。むしろカレンダーの方が、こちらの錦鯉愛好家には喜ばれるでしょう。現代のまさに選りすぐりの錦鯉たちだものね。でも、これって、私たちの眼が肥えてきたというのが本当かもね。なんといっても観賞魚としての錦鯉がポピュラーになったのは日本でさえ最近だとのこと。こちらの『英国錦鯉協会』の会長のミスター･アレンは、10年ほど前かしらに、山古志村を訪れたときには錦鯉を見なかったっておっしゃってたわよ！いずれにせよ、私もいずれ日本に戻り、錦鯉の水彩画など描いてみたい。そんな余裕をもって暮らしてゆけたらなと思ってますので、どうぞご期待ください。

あの絵、こちらの錦鯉愛好家のどなたかに贈り物として差し上げたらということでしたのでしょうが、実はね、私がもらっちゃったのです。やっぱり小包ってのは難しいねえ。随分と手荒に扱われるみたいだから。絵の端っこのとこがクシャとなっていたり、真ん中辺に折り目が出ていたりだったの。割れてはいなかったのが幸い！ 此の前のお人形さんの時なんて、残念がるやろと思って敢えて言わなかったけど、なんと内裏雛の袴にビシャと穴があって、つまり台座の棒が突き刺したというわけ・・。これからは、踏んでも蹴っ飛ばしても何ともないという具合に、頑丈に荷造りしてもらわなくてはと言おうと思ってたのよ。

まあそういう次第なもので、迷わずに、さっさと白い画用紙を買ってきて、ぴやぴやとインスタントの額縁をつくって、机の前の白い壁に貼ったわけなのです。なんと云っても、錦鯉を純粋に恋しがっていたのは私なのだし。日々の暮らしの私の身近に錦鯉がいてくれるんだってホッと安心したのよ。鯉の絵を見ながら食事をするのが喜びになって、お父さまが縁側に座って、池の鯉たちを眺めながら、朝食を取るのを喜びにしていたのと重なり、私も同じような嬉しい気がします。折々に壁の絵を眺めてはホワーッと心を遊ばせて、しばし舞鶴の家を懐かしがっていられるので至極満足なのです。有難うございました。

じゃあ又。かしこ　　千鶴子より

. . . . . .

1974年4月22日

お父さま＆お母さまへ

ドクター・カーベルからのお誘いでウィルソン・チャーチルが晩年過ごされた館 《CHARTWELL》を訪れました。

彼女の運転でケント州へと赴き、その途次あちらこちら、まるで絵葉書さながらの素敵な風情の鄙びた村落（イギリスでは観光のメッカらしい！）にも立ち寄り、すごく愉しかったの。カメラは持参してましたけれど、何しろこちらは写真の現像代が凄く高いの。一枚が絵葉書の5，6倍も掛かるわけだから、下手にパチパチ出来ないとつい慎重になる。でも、此の度のは何年来のいい写真だって！ ドクター・カーベルはとってもお喜びで、オーストリアに居る叔母さんにも送りたいとのことで、追加注文だったの。私の写真機がひどくいいって、感心してました。

やはり、カメラは日本製かな？！嬉しいわよね。

ドクター・カーベルにお付き合いいただいていること、本当に喜んでるの。この国では個人と個人との間にある壁の厚く固いことは恐ろしい具合なの。それが、かつて日本から研修に来ていた安田雅子さんという方が彼女のお勤め先の病院で同僚だったというご縁で、私とも親しくしてくださって・・。こちらに来て以来、2年近く時たま会ったり、職探しの際は身元保証人になってもらうやら、【タヴィストック】の入学審査に必要な推薦状を書いていただいたり・・。およそこの人の援助なしには今現在の私はありえないという大切な人なのです。しかしながら、そのホスピタリティには感激するけど、やはり今一つ気心が知れないというか、打解けた気分にはなれなかった

と言える。スコットランドの出自でいらして質朴なお人柄なのか、ご自分についてお喋りはあまりなさらないから、実際にはよく解んなくて、麻酔医という職業柄のせいでもあるかもしれないけど。日本的な感覚で言うと、つい遠慮してしまうわけ。およそ会わずに済ませようかともよく思ったけど。反面、どことなく生活が優雅というか、センスが違う、やはり学ぶものを持っていらっしゃるという気がしてね。それがここ最近ようやく、なにやら交際のコツというか、彼女と付き合う呼吸が呑み込めたというか、伸び伸びと付き合っていて、やっと賑やかに笑いあうとか、通じるものを感じ始めたの。凄く安堵してます。このイギリスの階級世界の独特の雰囲気に溶け込むためには、やはり背伸びしなくちゃ付き合えない人たちとも付き合ってゆくことで徐々に自分が鍛えられてゆくんだなって思う。要するに、人としての品格が試されるわけだけど。お蔭で自分が少し大人になったかなって思うの。お母さまが小包みの中に入れてくださってた御殿毬とか和紙人形をドクター・カーベルに差し上げたのよ。本当に喜んでもらいましたし。親の心尽くしのお蔭で、此処異国に暮らしながらも私のちいちゃなプライドが傷つかずに済んでるわけなのですから、とても有難いです。

それから、私の乳児観察のペピのお母さんのミセス・プロメイアだけど、ほんと素晴らしい方です。週1回の定期的な家庭訪問が、とっても愉しみなの。運がいいったら、もう、えらい大当たりなのです！それで、ほら、いつぞやお母さまから頂戴した日本の民芸玩具、「でんでん太鼓」を御礼に差し上げたのね。熱狂的に喜ばれたわよ！あれって、赤ちゃんをあやすための子守り道具でしょ。こちらにだって、ありそうだけど。それが無いの。とっても珍しいわけ。こちらではあんまり赤子を可愛い可愛いしないからかな？！

日本から届けられるものをあちこち気前よくばら撒いているわけでは決してないんだけど・・。実はね、【タヴィ】教官のミセス・ラスティンから今日、嬉しい手紙をもらったの。個別指導を終えて、こちらでは普通そんなことは誰もしないと思ったけど。心から感謝してるし、それをなにか形で表現するのはむしろ自然と思い、手許に大事に保管してあった貝殻細工の「若狭塗り」のお盆を、【With Love and Gratitude】と書いたカードを添えて、ご自宅にお送りしたの。彼女、本当に嬉しかったみたい。素晴らしいものだっておっしゃって、早速に居間の暖炉の上に飾られたんですって。私の心遣いにもたいそう感動しておいでのご様子が解って、私も大いに安堵したの！私たち日本人の愛し、産み出したものが異国で喜ばれるって、やっぱり嬉しいわねえ。

では又。　　千鶴子より

1974年4月24日

お父さま＆お母さまへ

こっちの気候は曇り空で、まだまだ寒いもので人々は真冬のオーバー着てます。春なんやからと、ちょっと浮かれた気分で薄着していると、とたんに風邪を引きそうな気配がするので用心してます。先月の半ばに風邪引いて、本当に酷かったの。死にそうな思いで、ほんまにどないしょかって思った。医者の処方箋で得た薬がなんとまあショックなことに、気分悪くなっちゃったの。夜飲んで寝て、次の朝、吐き気がして目覚めて、本当に吐いちゃって、あんなに心細かったことないのだよ。医者は、薬のせいじゃなくて、風邪だからだって。ジェーンが問い合わせしたら、そう言ったと言うの。私、処方された薬のうち、甘いシロップのがおいしかったので、もう一度だけと思って舐めたけど、あとでやっぱり嫌な気分がし

たので、全部捨てたのです。勿体無いけど、どうしても薬って怖いって気がする。医者には掛かりたくないものです。薬とは縁無しってのが一番いいわけで、用心して日頃から健康管理をしておかなくちゃいかんですねえ。日本人向けの診療所があるって聞いたので、念のため問い合わせだけでもしておくつもり。これだってどうだか解らないけど、同胞だから親身になって診てくれるかなって期待しちゃうからだけどさ。どうも先月の風邪は咳がひどいというのが一般的だったらしいけど、私も今でも夜、時折、特に疲れている時など咳が出るので、ちょっと不安です。完全に治りきるまで、時間が掛かるのでしょうね。そんなにひどくなく、コホンコホンって程度で。食欲も普通にあるし、他は全然悪くなく、あちこち飛び歩く元気が出て来てますし、どうぞご安心を！

ロンドンの『若竹会』（英国人と日本人の社交クラブ）のお話ですけど。先日、月一回のミーティングがあったのよ。ちょっとした教育フィルムも上映され、てんでにお喋りしながら、オカキを摘まんだり、ワインやら飲み物もあったり。私はこれ迄たったの２回の出席で、どうも集まってきている人の実態がよく掴めてないけど、一人だけ、アイリーンという女性とはよく喋る仲になって、その人、本気で日本へ移住する決心でいるみたいなの。でも、スペイン旅行中に風邪引いて（去年の１１月ですって！）、それが今でもちょっと私なんかよりひどくて、ゴホンゴホンなのよ。それで心細いので、しばらく日本へ行くのを考えて延期しているって残念がってらしたのよ。それから、日本人もちらほら居るけど、英国人が殆どなもので、お互いに話し合う関係も持たずにいるという具合で、つまり日本人が英国人に取り巻かれているってわけで。顔ぶれも次々に変わっているみたいだし。来週は、活け花の講義がジャパン・ソサイティの催し物であるの。次の週はジャパン・ソサィティの年一回のミーティングで、委員の選挙があったりとか。大体が英国人なのよ。おっかしいわね。その後、皆でくつろいで、ワインとチーズのパーティがあるわけ。規模が大きいので、いろんな人の顔を見れるし、ちょっと顔出そうかと思ってます。真面目になるようなものはないでしょうけど、時たまどんな具合か、日本人の顔を見にゆくだけでもいいし。そのうち何かヒョンなことで、いい人だなと思える人（男でも女でも）に出逢えるかも解んないし！何でも経験なのよね。

本当にここロンドンってとこは、いろんなものが集まるところで、つい先週も、ある画廊で、エスキモー狩猟民の彫刻やら絵やらを見たけど、面白かった！ちょうど翌週に企画されるカナダ・インディアンの展示の品々が届いたばかりでそれを床いっぱいに拡げてるところで、私もその場に立会い、そこのスタッフが次々と梱包を紐解くのを胸どきどきさせながら眺めていたけど。やっぱりその造形感覚には痛く感心するものがありました。ここロンドンには一生居たいとは絶対思わないのですし、吸収するものは精一杯しておこうという態度です。この頃の勉強の方はぐんぐんと迫力が付いてきたというように感じられます。子どもたちの観察ではとってもいい経験をしていますし、得難いいい本がタヴィストックの図書館から借りられるし、時間的に余裕を持っているということが実に有難いです！そんなわけで、何かしら頭の中で纏まってゆくものがあるような気がしており、楽観的になりつつあります。それから、ヒョンなことで「スピーチ・セラピイ」の或る会合に出ることになりそうなの。得るものがありそうな予感ですし、また業種の違う人々と知り合えるのも楽しみです。いずれ又。さよなら　千鶴子より

1974年4月28日

お父さま＆お母さまへ

私もこの頃は、いろんな経験しながら、やはり自分の考えは間違っていなかったと改めて思うのです。タヴィの訓練生（trainee)としての地固めという意味合いでもひどく充実した日々を送っています。実際のところ生活の資金繰りについていえば、誰にとっても頭の痛いことであり、ひどく個人的問題だから、それぞれが解決してゆかなきゃならないのであって、特に外国から来て、若くてといった私などの事情は、まるで絶望的なのですけれどね。タヴィストックの先生方にしても、そうしたことは解っていても何とも助けようがないので、家から援助してもらっているという状況で、私が余裕をもって頑張っている姿にホッとしている様子なのです。私は本来‘いい格好しい’じゃないと思うけどね、近頃では賢く成長してゆくというコツを覚えたと思う。経験する事柄にしても、肝心なことを最優先するようにして、極力消耗しないように努めている。この国に永久に居るわけじゃなし、得るものは得て、気が済んだところで帰国することが上手なやり方だと思うわけだけど。結果的にはこの１，２年はかなり両親に負担を掛けることになりそうで、内心ひどく有難くも申し訳なく、大変なことになったと正直焦る思いもあるのです。

さて、ここに至って、およそタヴィストックと勉学しか念頭になかった私の身に起きた、‘錦鯉’をご縁とする、こちらの‘鯉キチ’たちとの邂逅はまさに想定外の嬉しい‘おまけ’でした。そちら宛にミスター・シールから礼状が届いたことと思いますが。此の度の件は、私やらお父さまやらの援助を本当に喜んでおられます。特に、こちらの《英国錦鯉協会》会長のミスター・アレンは、日本人と友好関係を結ぶのはかなり難しいってことを、彼のこれ迄の日本との交易の経験上、熟知しておられるせいか、私のここでの存在はひじょうにuseful(使える)ってことで、大変な感激ようで、《愛鱗会》会長の黒木健夫氏宛にもご挨拶なされたとか。私と舞鶴のお父さまのこと、これ迄の経緯などなどお知らせしたとやら。それで私に、＜歴史に名前が残りますね＞なんて冗談をおっしゃるのよ！大仰なこと！でも、それってもしかして本当の話かも・・！お父さまにしても、《愛鱗会》の会長の黒木氏やら副会長の神谷氏やら、別府やら東京やらとあちこち電話をしまくったみたいですね。‘我が不肖の娘が撒いた種’だからということだけど、大変でしたね。私にしてもミスター・シールから写真を見せてもらって、その友好のネットワークの拡がりようには内心深く驚き、こうした事の成り行きって、なんなのかしらって、我がことながらもうまるで信じられない、微妙な心境でした。喜んでいいのかしらね？

実はついこの前の日曜日、私が近くの『リージェンツ・パーク』へ散歩に出掛けてた留守中に、ミスター・アレンが訪ねておいでだったの。確か次の週の予定だったはずなのですが。それで【パーキンス】（彼の会社）の名入りの文房具などをジェーンに託けて置いていってくださったの。私はすぐさま、近くにお住まいの娘さんとこに電話で連絡を入れて、晩に来てもらうことにしたわけ。それで、夕刻９時にお越しでしたのですが、東京の神谷氏を少し背を高くしたような品のいい感じの英国紳士でいらしたわよ。私としては、電話で＜いらっしゃいませんか？＞とお招きはしたものの、エンジニアで無口な人なら、どないな話をしたものやらと内心懸念しなくもなかったのでしたけれど・・。どっこい、面白い話になってね。商用で訪れた日本での想い出話、１０年前、６年前のことなど大いに語られて、私も珍しいやら

面白いやら、つい夜更けの１２時前頃まで話し込まれて、翌朝トルコへ商用で赴くため、ヒースロー飛行場の近くのホテルに泊まるということで、帰られたのだけど・・。実に愉快でしたわけ。妙な結びつきだけど、いい方に会えたみたい。人間の一生ってのは、実に面白いものだなあって、いろんな出逢いの中で最近頓に実感しています。ミスター・アレンのお話しからしても、人はそれぞれに何かしらを担って生きているんだわって印象がより鮮明になってゆく。国とか会社とか・・それもほんと人それぞれだけどね。願わくば私も、いい人生を生きられたらいいなと思った次第です。では又。　さよなら　　千鶴子より

1974年5月6日

お父さま＆お母さまへ

凄いビッグ・ニュースが一つ！舞鶴の日星高等学校時代の私のクラス担任だった吉国先生って方、覚えてるかしら？今はシスター・ローズリンとおっしゃるの。私、昨年の暮れ頃、クリスマス･カードを舞鶴の修道院気付で送ってあったの。なんとまあ、それがシスター・ローズリンの日本での赴任〔奉仕〕先を転々として、ついにはフランスにまで転送されて、ようやく彼女の手許に届いたということらしい。どうやらパリで海外研修中でいらっしゃるご様子なのですが、そんなおたよりが彼女から私の元につい先日届いて、しかも夏頃にはロンドンに立ち寄るかもしれないっておっしゃるのよ。面白い巡り合わせですねえ。今頃になって、ほんと不思議でしょ？万感胸に迫るものありなの！

今になれば懐かしいとも言えるけど。聖ヨゼフ学園・日星高等学校に和田中からの推薦で私は「特待生」となったわけでしょ。言うなれば、有名大学への進学率を高めるために‘日星’の看板を担う、少数エリート教育が施されたことになるわね。教師陣も悪くなくて、殊に英語教科担当の村田先生は早稲田大學・英文科卒であったから、びしびし仕込まれた。歴史学者トインビーの原書購読するやら、なかなか刺激的でもあったし。そして彼の影響もあって、いつか私もフランス文学の学徒となり、存分に人間探究に勤しむんだとやら、あれこれ夢想したりしてたわけで・・。

それからその当時、紛れもなく印象に深く刻まれたことの一つが、「聖ヨゼフ学園」の敷地のお隣にはカナダ系のシスターたちの運営する病院があったの。シスターたちは日々医療に携わっていたわけですが、私はその傍らに併設されてあった修道院を折々に訪れて、英会話を習いに通ってたの。シスターたちはどなたもとてもさばさばとした恬淡たる風情で、カナダの神父さま方よりも近付きやすいけど、でもやはりどこか飽くまでも‘超俗的’で、個人的には馴染まないままに終わったような気がする。やはり懐かしい思い出なのだけど。そこは木造建ての、やはりカナダ流というか、簡素な内装で、香ばしいパンを焼く香りが微かにたちこめてた。ダイニングテーブルの上には布のナプキンが綺麗に巻かれてリングに収まり、一つひとつ丁寧に並べられてあったり・・。彼女らの慎ましくも清楚な暮らしぶりに、ちょっぴり異国情緒を覗き見したみたいな、それでちょっぴり憧れたりもしたわけだから・・。

そんなふうに、カトリック信者でもなんでもないのだけれども、私なりにミッション・スクールの新しい環境にひとまず慣れていったともいえるけど。でも徐々に受験勉強というのが色褪せてきたのね。受験校を決めるにしても、わけも分からぬままに自分がとんでもない‘勘違い’をしてるような気になり始めて、俄然、自分の足元の

道筋も翳んで、未来の展望も曖昧模糊としてきたんだったの。

そしてその頃、第３学年目の初めに、クラス担任だった吉国先生が突然いなくなったの。噂では、誓願を立てられて修道会に入られたとか。《聖ヨゼフ学園》の母体の、確か『訪問童貞会』に帰依されたようなのよ。カナダ系のシスターたちもそうだけど、彼女も自分の‘身の捨て所’を得たのだというふうに私の眼には映った。羨ましかった。自分もいつか‘身の捨て所’を得たい、それをいつか探さなくてはという焦りをずうっと抱いてたみたい。『精神分析』に辿り着くまではね。そんな薄ぼんやりとした靄の中で、出口なしの袋小路に嵌ったようなそんな心境だったから、大学受験は、夢遊病者的に、一応受けはしたけれど、その結果はご承知のとおり散々で、ついに‘日星の誉れ’とも‘山上家の誉れ’ともならなかった我が身の不甲斐なさだけが苦く残った。『愛知県立女子大学・児童福祉学科』に入学してからも、しばらくは我が身を竦ませて過ごしていたようなことだった。誰彼に不義理をしてしまったという思いは辛かった。でも当然躓くべくして躓いたということでしかないわけで・・。‘有名大学’進学などといったお題目に乗せられ、誰かの都合のために期待を担わされても私は駄目なのだと思い知った。この折の傷つきがゆえに、それ以降、自分にとって‘本意’とは何かに徹底してこだわる習い性となったことは確かかも・・。

『日星高校』とのご縁は、尻切れトンボみたいで、私は大學受験を言い訳に卒業式をも欠席する始末で、後で担任の伊東先生に卒業証書をお父さまが貰いに行ってくれたんだったわね。ほんとうにご迷惑の数々でした。そんなわけで、『京大』の大學院へ進学した折だって、私にとって、それは将来いつか本格的なトレイニングを受けるための海外留学に備えての言わば‘時間稼ぎ’でしかなかったのだから、わざわざ『日星』に報告することなど思いも寄らなかったし、当然なんらご挨拶をしていない。だから、ずっと長い歳月を経て、ロンドンから、なんでシスター・吉国宛にクリスマスカードなどを送ったのか、まったくの気紛れなのだけどね。特に印象に残る、どんな交流があったとも言えないのに、突然に誓願者としての道へと歩まれて私たちの前から姿を消された吉国先生のその後がやはり気掛かりでもあったわけで・・。おそらくは違った場所で違った‘身の捨て所’を探し当てたもの同士としてお互い、何かしら心の交流を求めていたんだろうという気がする。その彼女にロンドンで逢えるなんて・・！夢のようで、胸がときめきます。

来週に又、「タヴィ」のセミナーで発表することになってます。皆がえらい期待してくれていますので、タイプで肩凝るけど、頑張るつもりです。それから就職の件！なんだか知らないけど、えらい話が舞い込んでくるみたいなのよ。詳しくは来週に解りますので、いずれ又ね。

どうぞお体の方、大切にしてください。私の方、体重は変わりません。食生活にはとても気を使ってる。でも、コーヒーに砂糖を入れるのが止められません。とにかく長生きしなきゃね、と思う。この‘我がまま路線’を貫いた先にどんな自分の未来があるのかを見据えてみたい。本当にそう思う。私はシスター・吉国のように、組織に属することはないでしょう。そもそも‘従順の徳’というものに懐疑的で、厄介な性格だし。組織に献身的に奉仕することは性に合わない。どちらがどちらとも言えないけれども。単独者の道の方が、厳しいけれども、むしろ私の性に合ってるように思えるの。それでは又。　千鶴子より

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1974年5月9日

お父さま＆お母さまへ

今日のはとても嬉しいたよりです。つい先日、予告してましたけどね。就職の件での嬉しいご報告になります。【タヴィ】の主任教官のMrs. マーサ・ハリス（Martha Harris）に呼ばれて、お話がありました。

それが、もうすごい、信じられないほど傑作なのよ！なんとセント・ジョージ病院なの！覚えているかしら？２年近く前の話なのだけど、私がまだ日本にいて、渡英準備をしていた頃に、ロンドンから就職のことでチャイルド・サイコセラピストの空席があるからってたよりを貰ったと言ってたでしょ。ドクター・カーベルがご尽力くださったわけだからと、気後れしながらも取り敢えず応募したわけだったの。それがそのセント・ジョージ病院の児童精神科だったわけ！

そもそも現実主義者でもある私にしてみれば、当面は半人前以下で実際に‘オペア（aupair）’ぐらいしか間に合わないに決まってると薄々分かってたわけ。だからというか、渡英から2週間も経ない頃、ドクター・ウォークという児童精神科外来の主任の精神科医から直々にご連絡があり、面接にどうぞというお招きを受けたわけだけど。此地に1，２週間滞在しただけでもう現実を知るには十分で、まったくもって専門職に挑む自信やら度胸なんてものありはしない。即電話でお断りすべきところを、わざわざ遠路はるばる、セント・ジョージ病院までお断りに出向いたという次第で。身の程知らずというか、もう穴があったら逃げ込みたいほど恥ずかしかったけど。ドクター・ウォークは丁重に応対してくださり、他にも２人ほど心理職の方を私にご紹介して下さったりで。英国人の懐の深さにはほとほと感激したのだったの。それで傑作なのは、そこで初めて彼の口から児童サイコセラピストの養成機関として《タヴィストック・クリニック》の名前を伺ったわけなのよ。他にもトレイニング・センターの名を挙げてくださったものの、【タヴィストック】がお奨めだ、と彼ははっきりおっしゃったの。この時点で、【ハムステッド・クリニック】以外にも選択肢があることを知ったというわけ。勿論、後から自分で資料取り寄せて、やはりそうだと納得したとしても、【タヴィストック】との出会いのきっかけを作ってくださったドクター・ウォークには実に恩義があるわけ。二度とお目に掛かれるなんて思いも寄らないことだったのに。まあなんと、そこへ行く話なのよ！それもなんと、【タヴィストック】での私の担当指導教官のミセス・クロケットが退職するというわけで、その後任にと、こういうお話なものだから、世の中の繋がりの面白さには本当に興奮する思いなの。

セント・ジョージ病院はテムズ河の南端に位置するTootingにあり、そこへの通勤は、最寄りの【Baker Street】駅から【Tooting Broadway】駅へと鉄道を利用し、１時間弱の通勤時間となります。全然悪くないでしょ。そこの「児童精神科外来」は、セント・ジョージ病院の広大な敷地の中でも独立した建物で、精神科医やらソーシャル・ワーカーが相当数いる、結構大所帯のようなのね。サイコ・セラピストとしては現在、ミセス・クロケットの他に、訓練生（trainee）として私のタヴィの先輩に当たる（コースの3年生）アメリカ人の女性が既にいて、さらには指導監督する立場の直属の上司としてミスター・ブレンナーとおっしゃる上級のサイコ・セラピストがいるということです。話を聞けば聞くほど、いいポスト（職）なのよ。ミセス・クロケットは４，５年

そこに居るって。いわゆるフルタイム（つまり常勤の9時～５時）ではなく、大体週に3日分程度の時間量らしく、従って報酬のことは今のところ一切解りません。でも私、運がいいったらありゃしないわね！私の同輩なり先輩なりでも私以上に経験のある人は勿論いると思うのに。それに同期生でも皆さんそれぞれに職をお持ちだけど、いわゆるサイコ・セラピイの仕事じゃないという具合だから。誰でも欲しがる職のはずなのに、なぜ私に廻ってきたのか、もうとても不思議！７月の半ば、ミセス・クロケットは退職の予定ですし。私の方、心準備する時間があって嬉しいです。２年前のあの当時、再びセント・ジョージ病院を訪れるなんて夢にも思わなかった！ドクター・ウォークに再会するのがちょっと気恥ずかしい気分です。

それからもう一つ、ミセス・ハリスからのお話は、或る自閉症の男の子のいる家庭で、母親をサポートするかたちで、家族と一緒にその男の子に関わってゆくという、ちょっと特殊な、或る意味で家庭教師的であるんだけど。それも報酬のある話で、先輩格のミセス・フレッチャーがお産でしばらく休むので、引き継ぎの誰かをということで至急に望まれたのです。不思議でしょ？過去の何ヶ月間か‘無職’でプラプラしてたってのは、ちゃんとそうしたことを計算した上でのことではあったけど。まさかこんなに早く事がうまく運ぶとは思わなかった。このまま此国では経済的に自活してゆける道など到底無理なのではと、ほんと内心びくびくしていたのです。道なき道が拓かれてゆくってこと、もう本当に心躍る思いです。あれこれ話しが本格的に纏まるのはまだまだ先でしょうが、この展開を誰よりも両親とともに喜びたいと思った次第です。

ではいずれ又。かしこ　千鶴子より

1974年5月16日

お父さま＆お母さまへ

先日 Mrs.ハリスの乳児観察セミナーで第２回目の発表を無事終えまして、ホッとしている間もないほどに、毎日毎日いろんなことに追われております。もしかして7月に就職するならば、それ以降あまり気軽にあちこち子どもの観察をしに動き回れませんから、今のうち此国の子どもたちの置かれている状況にもっと精通しておかなきゃなんて欲張っているというわけ。同期生で仲良しのノエルにわざわざ頼み込んで、彼がプレイ・リーダーしている【Deprived Family Cetre】をも見学させてもらったり・・。でもミセス・クロケットに訊くと、全然緊張することはないみたい。そういう社会学的考察ってのは、ソーシャル・ワーカーの得意領域だからサポートしてもらえばいいし、時折にスタッフ皆で顧問を呼んで話し合いの場を設けたりもするとかなんですって。そうなったらなったで、どうにか職業的センスは会得されてゆくものなのでしょうけど。やはり生活の感覚レベルでまだまだ私には多くが了解不可能なのではないかと危ぶんでいる。でも、サイコセラピイという子どもの内的世界についての理解ということになれば、それもむしろ私にとってハンディとはならないかも知れない。「心の現実」には、万国共通かどうかは難しいところだけど、或種の普遍的な視座が想定されるから・・。とにかくもそれこそが私の専門ですし、慣れた仕事に戻るのですから、何といっても嬉しくって・・。早速セント・ジョージ病院のドクター・ウォーク宛にご挨拶の手紙出したので、そのうち面接の日を知らせてくださると思う。なにしろタヴィのミセス・ハリスの推薦ですし、他に候補者がいるってわけじゃなさそうだし。それでも、ちゃんと仕事の時間なり給料なりを知らされる迄は、ちょっと落ち着きません。

例の【ホーム・オフィス】で滞在延期の申請を6月13日までに手続きしなきゃならないので、そのことでドクター・ウォークに保証書みたいなのを書いてもらわなくちゃいけないわけなの。そんなこんなで、事態は飽くまでもあちらの状況次第なのに、私の状況があれもこれもと一つずつ切迫していたりするものだから、頭が無闇に忙しくもいっぱいいっぱいになることがあるのです。

実際、私の勉強の方、かなりきつい状況にあります。一つひとつ、文化の違いというものを考慮して判断しなくてはと思うと、なにやら天地が逆転するみたいな、‘逆さまの感覚’に悩まされること頻りなのです。【タヴィ】のセミナーに参加していても、この頃思うようになってきたけど。他の訓練生を見ても、感じ方の洗練されている人ってごく僅かで、大概のところ、案外と凡庸な印象なのよねえ。時折他の人の発表を聴いてて、全然ピタッと来なかったり、どちらかというと不快に思ったりして。そんなときは、此地での自分の経験は浅いのだし、もっと深く考えてみなきゃって一応引き下がることばっかりだったわけ。でも、やはりね、‘遠慮深い性質’なんて、こちらでは美徳でもなんでもないの。むしろそれこそが私の目下の‘躓きの石’なわけ。勿論タヴィの教官について言えば、感心することが多々あるわけだし、洗練度において上の上といった部類の人たちがいらっしゃるのも確か。そうした彼らを目標にしょうと決めたの。ほら、もう直に自分もセラピイのケースを持てるって、だから堂々と上を向いて歩いてゆけるって思いなの。

それから一つ傑作なのは、最近或スピーチ・セラピイの講習会に参加し始めたんだけど。それは【タヴィ】とは全然無関係なの。たまたま立ち寄った近くの書店で見つけたの。或ドイツの神秘思想家、ルドルフ・シュタイナーというひとの著書を販売していて、その教育思想の普及活動を専らとしている、ちょっと珍しい書店なの。眼鏡を掛けた、いかにもインテリといった感じの若い男性が店番をしている。キリスト教的な考えを基盤においていて、その《世界観》が実に秀逸に思われる。コトバを音声から捉えようとしているし、世界を身体の動きやら色彩で捉えようとしている。そうした生命に根ざした《世界観》って魅力的に思えたわけ。『精神分析』以前の‘感性教育’になるかと思われるけど。私には違和感がない。それどころか、サイコセラピイに携わりながら、「身体を忘れている・音声を忘れている」、そんな私たち精神分析学徒の盲点を突いているんじゃないかという気がしたわけ。

ここに至って気付いたことは、私が日本で学んだ英語教育の弊害とも言えるけど、そもそも受験英語を詰め込まれたってところから始まってるから、ガチガチで、頭のなかで論理的に筋立てしてゆくには一応間に合うとして、翻訳とかはね、それで充分。だけどそもそも会話向きではない。コトバを音声として捉えてないわけだから、英語を喋る際にリズム感がそもそも欠落している。これはセラピストとしては致命的なハンディだと思えたわけ。頭抱えちゃう。つまりは今、「スピーチ・セラピイ〔正式な呼称はオイリュトミー〕」が必要なのは私自身だってわけ！

ここ『ルドルフ・シュタイナーの館』にはいろいろコースがあります。絵画やら舞踊やら・・。集まる人間の種類が、【タヴィ】のコースの人種とも違う趣きなの。俗気がないというか、キリスト教精神のもっとも清純にして熾烈な姿勢に貫かれていて、清々しいのです。私、皆さんとのお喋りを愉しんでます。殊に、児童教育に携わっている人と話が合う。そのツテ・ツテで、シュタイナー

教育を施している、有名な精薄児のコミュニティ（治療施設）を近々見学に訪れることになりそう。子どもらの顔がピカピカに輝いているのよ！それから、インドネシアの女の子（インドネシアとオランダの合いの子！）でご主人がベルギーに居て、２週間に一回会いに行くとやら、オックスフォード大學で英詩の学位論文を書くのに追われているとやら、一風変わった人がいるよ。とにかくその過去の経歴を聞けば、面喰らうというか、一筋縄では括れないものがあり、どなたも実に多彩で面白いの。なんというか、生きているって感じ、つまりは断然‘いのちが弾けてる’感じなの！

それから、もう一つ傑作だったのは今日ジャパン・ソサィティで年一回のミーティングがあり、その後チーズとワインのパーティの催しだったのだけど。会場に入ってもうびっくり。わんさと群れ集まる殆ど総てが、英国人でご年輩の方々ばっかり。その場に居合わせた、或るオペアの女の子なぞは＜まるで敬老会だねえ・・＞って！他のもう一人若いイギリス人の教師の３人で大笑い。その方たちから伺った‘何十年昔の日本’の昔語りやら当時の自らの体験談ってのがほんと面白かったの。それから、一人だけ和服をお召しの、楚々とした佇まいの日本人のご婦人がいらして、おとなしく聞き役専門みたいな感じなので、私ヒョイと話しかけて、お召し物を褒めたのね。それから延々と着物の着付けのことやら、日本からは着物は茶箱に入れて密封して送るとやら、それからお子さま方の教育のことなど、傍でご主人とお友だちのイギリスのご婦人がつい微笑しちゃうほど快活に喋りに喋ってくださり、私、興味深く伺ったの。帰りがけにわざわざご主人さまとご一緒にご挨拶してくださって、お名刺も頂戴したのよ。それがなんとリージェント・ストリートといって、東京でいうなら銀座通りだけど、正面玄関口にデンと祭りの神輿が据えられ威風を放つ【国際観光振興会】の所長さんで谷口昇とおっしゃる方とその奥さまでしたの。＜一度自宅に遊びに来てください＞〔ハムステッドですって！〕とか、とっても親切におっしゃってくださり、恐縮しちゃいました。それから、いろんな話があるのよ。では、又の次の機会に。千鶴子より

1974年5月23日

お父さま＆お母さまへ

まずは大事な用件からご報告です。送金は間違いなく届いております。有難うございました。お蔭さまで生活はきりきりというところですが、全然不自由な思いをしていませんので、本当に感謝しております。

ロンドン中央へ引越して以来、どうにか【タヴィストック】のチャイルド・サイコ・セラピストの訓練生(trainee)に相応しい、それなりの体裁を整えてきまして、ずいぶんと落ち着きました。‘投資’というのも変ですけど。或る意味、余裕のあるような身繕いやら生活態度は将来のために必要なの。現在はね、ちょっと無理してでも・・。ところが実際のところ、ここロンドンのファッションというのがまるで私にはピンとこない。あちらこちらブティックを物色して回ったけど。高級だからいいとも限らない。概して素材はいいとしても、デザインがまるで気に入らないわけ。小柄な私に合うサイズの服を見つけるのがまず絶望的で・・。ところがヒョンなことで、この近くでとても素敵な古着店を見つけたの。服でもアクセサリーでも靴でもいいの、何でも不要なものが持ち込まれる。それらがそこそこの値札が付けられて店に並べられてあるの。店は販売を代行し、その売り上げからリベートを稼ぐといった斡旋業の店なの。それ

が日本風の惨めな古着っていうのじゃないのよ。ほら上には上があるでしょ。上流階級の人がブランドものやら、仕立ての上等な、でもあまり手を通していないようなものを売りに来ることがあって、ヒョンな掘り出し物があるので、結構人気の店なの。私の場合、いつもサイズが問題なのだけど。面白いと思ったのは、イギリス製は野暮ったいけど、イタリアやらフランスやら外国製のものがむしろ割合デザイン的にはシャレてたりするのよ。因みに先日買い求めたのは、フィンランド製のベストとロングスカートの対なのだけど。それが白と濃い青のひじょうに珍しい柄模様で、とてもいいって皆に好評なのです。２０ポンド近くするかも知れなかったのに、５ポンドで、殆どニュー(新品)なのですから、買えちゃってほんと嬉しかった！でも、この同じ店で私の靴のサイズのものに出くわすことはおよそあり得ないし。靴屋さんで新品をとなると、もうおっそろしい値段なの。今のところは手持ちの靴でどうにか間に合わせなきゃね。いろいろ遣り繰り算段に頭を痛めます。でもなんだかこんなこと苦労だとしても、結構面白い経験してるわって、内心思うの。

さて、それから、重要なる用件に移りますが。同封のタイプされた手紙は、【ホーム・オフィス】宛へのお父さまからの手紙になってまして、ほら、６月１３日までに滞在延期願いに行かなくちゃならないでしょ。就職の件は、それまでにはっきりと目途が付くか判りませんし、ともかく運よく決定したとしても、７月以降のことなので、ともかくこの際は、学生としての身分で登録することになるわけです。そうした場合、普通は預金通帳を提示するとかの話だけど。私の現在の通帳残高は７０ポンドぐらいしかありません。郵便で送金してもらっているって言えばいいし、それで一応念のため、お父さまからの手紙を提示するのがいいと思ったの。大して面倒なことにはならないとは思うけど。きちんと筋を通した方がいいと思いまして・・。それで文章の最後の Noboru Yamagami の上の空白のところに、自筆で大きくサインをしてもらえばいいのです。ご面倒ながら、よろしくお願いします。なるべく至急に返送してください。（速達にする必要はありませんので。）度々いろいろと済みません。

ちょっと愚痴っぽい話をしちゃうけどね。つい２日前だったか、勉強上のことで、ひどく気が滅入ってね。難しいの、とっても！つい気弱になって、もう日本へ帰っちゃおうかって思ったりしたので、思い切って気分転換に近くの寿司レストランへ一人で行って来たの。まるでロンドンに居るのが嘘みたいな感じで、店内は日本人ばっかり。お酒飲んで、あれやこれやとりとめの無い無駄話に花咲かせているの。ボォーと久し振りの日本語を耳にしながら、私カウンターに腰掛けて、板前のお兄ちゃんに寿司一人前を作ってもらった。綺麗で、すご～く珍しかった！慰められたの！

それからしばらくして、またまた元気回復して頑張り始めました。ようやく腹が据わってきたという感じです。どこか臆病で小心者の私が逃げ腰及び腰になってたみたい。でも何ごとも迎え撃つぐらいの根性でなければいけないのね。今度の就職の件でも、【タヴィ】の人たちにはよくしてもらっているし、以前はどこか異邦人的な思いがあって溶け込めなかったけど、この頃なんて、本当に【タヴィ】に所属しているって感が強くなって、仲間内で親しく語らえる人も多く出来て、得るものはたくさんあるのです。それに、私はあまり意識していなかったけど、ここの【タヴィストック・クリニック】ってぐんぐんと世界的にも有名になっているみたい。というのは、ここがメラニー・クライン

派の牙城というわけで、これ迄、どちらかというと正統のフロイト派からは異端視されてきた嫌いがあったみたいなのですが(理論的には皆すごく頑固なのです)、だんだん再認識されつつあるようです。私などは、成り行きでヒョイと紛れ込んだに近いわけだけど。近頃では、なにやら頑張る価値はあるとの感慨を深めつつあるのです。日本からの声援もあり、又こちらでも、日本と随分と事情が違うでしょうって、その違いを興味深く聞かれたり・・。そういうわけで、もう少し自分の考えが纏まって明らかになる迄、あと1，２年すごく苦労するなあと思ってます。私が我がまま勝手に一人で背負い込んだ苦労やけど、次々と力を貸してくれる人たちに出会えてる。この運の強さには我ながら信じられない思いです。でも、やっぱりなんといっても家からの援助がなければ、どんなに泣こうが喚こうがなんともならなかったことですし。私はとても両親に感謝しているのです。では又。お元気で。かしこ

千鶴子より

1974年6月18日

お父さま＆お母さまへ

お母さまの佐渡からの旅のおたよりいただきました。楽しかったって、よかったわねえ。この前のジャパン・ソサイティのパーティでお年を召した英国のご婦人が日本での温泉のことをひどく懐かしんでおられて、真っ裸で泥に浸かった話とか。そんなのはちょっと不謹慎だから、普通レディたるものは話さないのだけどね。手にリューマチが出来たのですって、それで尚更に温泉めいたものやらマッサージとかが懐かしくって、日本へ行きたいって頻りに言っておられましたよ。佐渡の話はまるで極楽の感じ！こんな窮屈なイギリスへ来るより、うんと長生きできるようなことだろうと思うのです。お父さまも一緒に行けばよかったのに。家に居て、錦鯉の世話をしているのが一番なのかしら？それもいいよね。私も、興味の範囲がひじょうに狭くて、それに集中的に打ち込むのがお父さま似なのかしら。でも偏屈にならない程度に、軽くでも世の中の人々のあり様を観察しているのもいいものですが・・。

先日、ブライトン(Brighton)という英国南東部の知名度ではイギリス随一の海水浴場へと足を伸ばして行ってみました。

ロンドンから日帰りで行けるビーチリゾートとして人気というわけだけど。近くの高浜海水浴場のもっと規模の大きくて俗化されていると思えばいいのよ。

なんともガッカリとは言わないまでも。「フィッシュ＆チップス」という、こちらの国民的人気料理があるんだけどね。魚の白身にころもを付けた天ぷら風の揚げものとジャガイモの細切りを揚げたの。それに塩と酢をぶっ掛けて食べるんだけど。その揚げ物と酢の匂いが街中プンプン充満してるような、場末っぽい港町でさ。

あちこち軒並みにゲームセンターがあり、１ペニーでお手軽に賭けられる機械が所狭しと店内に並べられてあった。本当に見なきゃ分かんないけど。週末だったら、もっとあちこちからいっぱい若者たちやら外人客が集まって賑わうみたいなのですが。こういうところに入り浸っている人々ってのは大概教育の低そうな、肌の状態の悪い（栄養不良！）、ガツガツした眼をしていて、そんなのが6ペニーのチップスの袋入りを買って、塩と酢をいっぱい振り掛けたのを、店の外の道端で立ち喰いしているわけ。そんな風景も、もしお母さまを連れてきたならば案外珍しがって

喜ぶかしらね。でもね、一生もがいてもどうしても浮かばれない低所得の労働者階層の人々の有り様なのだと思うと、一瞬気の滅入る思いがしたわけなの。階級の違いが本当にひどいのよ、此処の国はね！私がいつか近々セント・ジョージ病院の児童精神科外来で出会う子どもたちというのが、おそらくはこうした文化的背景にどっぷり浸かっているはずと思われる。ちょっと‘下検分’をしに来たってことでもあるの。

ところで、今月２３日に【英国錦鯉協会 British Koi-Keepers’ Society】の年一回の総会がレイチェスターで開催されます。ミセス・アレンが手配してくださって、ロンドンからミセス・ブライアントという方の車に便乗させてもらって私も出席することになりました。それから、その後ミスター・シールのお招きで、ご自宅にお連れいただき、１週間ほど滞在させていただく予定なのです。いろいろと身に余るお心遣いをいただいてます。これも親のお蔭だと思ってます。結局、錦鯉のご縁で、此地で信用していい人々に出会えたようです。就職の件は目下進行中ですので。では、いずれ直にたより致します。さようなら

千鶴子より

1974年6月27日

お父さま＆お母さまへ

ここしばらくご無沙汰したような気がしますが、私の方は至極元気でおります。今、シール家でこの手紙を書いているのですよ。昨日でしたか、舞鶴の Dr.川口先生から見事な装丁の錦鯉の解説書が届きまして、

その御礼の手紙を出さなきゃいかんって、今私の傍らでローランドとポーリンが張り切っています。ついでに私もと家にたよりする気になり、無駄話に花を咲かせながら、賑やかにやっています。

日曜日の【英国錦鯉協会】の総会は、とても盛況でしたよ。ミスター・シール（ローランド）の日本での錦鯉巡りの旅のスライドが上映されたのですが。もう実にうまく編集されてあり、傑作でとても良かったの。場内は沸きに沸きましたよ。それらの中に、綾部の錦鯉の養殖場を訪れた際にお父さまとお母さまの姿が撮られてましたものだから、私はもうひどく懐かしくって堪らない気持ちになりました。

あの日は、パットとゴードン夫妻（お互い親しくファーストネームで呼び合うことになったのです）が、私をロンドンから総会会場のレイチェスターまで車で3時間でしたが、連れて行ってくださって、集いの後、ストックポートのシール家へと赴き、ローランドとポーリン夫妻、それに息子のマイク(１１歳の男の子)と、それに地元の二人のお連れの方たちと賑やかに夜の道をドライブしたのでした。結構な長旅でしたけれどもね。

総会の後、会長のアレンさんご夫妻と他の5，６人、いわゆる仲良しの‘鯉キチ’グループで宴会したわけなの。そりゃもう賑やかで楽しかったの。ミセス・アレンがなんと私に焼き海苔

を一缶下さったの。ミスター・アレンの会社に届いた日本からの贈り物なのですって。もう一缶の方はどうやらご自宅の庭の池の錦鯉が食べているみたいなのよ！それで私が紙を千切るようにして海苔を食べるものだから、皆でもう大笑い！ミセス･アレンのバカ笑いって、どうも有名らしいのよ！そりゃ次から次に可笑しなことばかりで、笑い過ぎて、お腹が捩れそうな具合だったの。ミスター・アレンは、６年昔に日本で「シェー！」が流行っていたとかで、その真似をして皆の前でして見せるやら、当時の流行の歌謡曲『愛しちゃったのよ』を歌ってくれたりやらで・・もう拍手喝采！ローランドが後で私にこっそり耳打ちして言うのに、アレンさん、日本でそのレコードを買い求め、その歌詞を随分苦労してどうにか覚えたみたいなのよ！

シール家の子どもたちは、１１歳のマイクと１３歳のダニエルなのですが、性質が本当に良くて、実に上手に厳しく育てられているって感心して眺めています。二人のベッドルームのうちの一つ、庭向きのお部屋を今回私が占領したことになるんだけどね。不便を掛けたはずなのに、全然愚痴も言わず、本当によく躾けが行き届いているの。一緒にいることが実に楽しい子どもたちです。イギリスの普通の家庭の、普通に健やかに育った子どもたちと間近に接することができて、どんなに嬉しいことか！生涯忘れ難い、今回の大きな悦びの収穫の一つと言えましょう！

庭の鯉たちもなかなかいいのよ。無論、神谷龍氏からの贈られた「プラチナ」と舞鶴のDr.川口先生から贈られた「松葉」は秀でていましたけどね。それに、いつぞや Dr.川口先生から送り届けられた濾過装置だけど、それを設置するのにローランドが奮闘したとは伺ってましたけど。日本で見た錦鯉の観賞池のように、水を澄ませなきゃってすごく意気込んでおられたわけなの。まだまだ完成の域には道遠しではあるものの、確かに彼の庭を拝見する限り、随分凝りに凝っている。さすが‘鯉キチ’だわ！

ここ近辺のあちこちローランドにドライブに連れて行ってもらっています。ポーリンとお喋りに花を咲かせて、毎日毎日賑やかに過ごしているのですから、どうぞご安心ください。詳しくはまた後ほど。さよなら　　千鶴子より

1974年7月5日

お父さま＆お母さまへ

ストックポートでの写真、レイチェスターでの英国錦鯉協会での記念写真も、出来上がりましたので早速送ります。私、思わずニタッとしちゃった。えらく余裕のあるふうに私写ってるでしょ。実際にお蔭さまで、誰に嫌な思いもさせられずに、着々と勉強に自信を付けているとは云え、他人と同じようにと焦ると、何もかも遅れが頭にきて、うつ的になってしまう。シールさんのお招きを受けて、ストックポートへ出掛けたのもその気分晴らしやったのに、全然勉学に疲れ

悩んでいる顔にはどうしても見られないようなふうに写真には写っているので、私って根っからの楽天家なのかと不思議に思ったのです。

セント・ジョージ病院の就職の件も、実は、つい最近、あの職は《英国心理学協会》の会員であることが必要なので、至急に資格を取って欲しいと言われて、さあ大変と大慌てで、【京都大学・教育学部】に私の学位証明書やら成績簿を送ってくれるように頼むやら、まるで山あり谷ありの様子で、あと1ヶ月白黒が付くまで掛かりそうなのです。

私、当初あまりの偶然の一致に喜んだし、ミセス・ハリスもミセス・クロケットも、気楽そうに、このポスト〔職〕に私が就けるものと信じて疑わない口振りだったので、半信半疑ながらも嬉しいような気持ちになっていたわけ。それにね、実はだいぶ前になるのですけど、もし事が確定すれば、そこの病院で私の直接の上司となり、ご指導いただくのがシニア・サイコセラピストのMr. ジョン・ブレンナーという方で、まず取り敢えずはその彼にお会いするのがよろしいでしょうという話がドクター・ウォークからあって、その方のお住まいが【タヴィ】への通学路沿いの Swiss Cottage というわけで、早速に日曜日のディナーにご招待されたのです。おそらく英国のアパー・ミドル階級になるんだろうと思いますが、庭付の一戸建て、瀟洒なお邸なの。彼のご家族にも引き合わされ、家中各階をご案内いただいたりということで。一応これは私の‘就職面接’なのでしたから、私としてはちょっと面映い歓待を受けたことになります。奥様もソーシャルワーカーでいらっしゃって、とても好感の持てる方でしたし。お子さま方も男の子３人、全員がそれぞれ寄宿学校に入っておいでとか。ご立派で、英国のミドル・アパー階層の威信を垣間見たような、圧倒される思いでした。

そのMr. ジョン・ブレンナー(John Bremner)というお方は、ご自身が【タヴィ】の卒業生で、ミセス・ハリスとほぼ同期、昵懇の間柄というわけでして、ミセス・ハリスが私に肩入れをして下さってるの承知しておいでで・・。そういうわけだから、就職がもし成らなくても、それはそれでいい経験として終わるかなと思ったり。ミセス・ハリスがまた別のチャンスをヒョイとおっしゃってくれなくもなかろうと思ったり・・。だから１０月までには何とか経済面で地固めして、と覚悟していたわけなのです。

来週、セミナーでのレポート発表があって(第３回目)、皆がたいそう期待しているので、しばらくはタイプに励むつもりです。おかしなことに自分では伸び悩みのような思いでいたりするくせに、どの他の人のレポートに比べても、タイプが一番きれいに出来ていたり、一番量が多くて、詳細に述べられていたりなのよ。後で誰彼に良かったって褒めていただいても、なんやポカンとして、ただ有難う！というぐらいだけど。だから、私はもっと度胸やら自信やらを持たなくちゃって、言い聞かせているのです。そのポカンとしたとこが、意外と魅力になっているようなのですがね。でもいざ専門職に就くとなれば、もっと大人として堂々と立ち振る舞いの出来るように(あまりニコニコしないとか、堂々と喋りまくれるとかね！)と願っているのですが。つまりは、‘日本恋し病’、‘親恋し病’を卒業することが肝心なのです。ほんとタフに(勁く)ならなくちゃって、自分に言い聞かせているのです。そういうわけで、独立の姿勢を持ちつつありますので、どうぞよろしく！

ローランド(ミスター・シール)は舞鶴をとても懐かしがって、来年のツアーの自由行動の時間にぜひ訪ねて行きたいって言ってます。Dr.川口先生との文通もひじょうに有難く思って

おられて、何１０遍も繰り返し読むとか、鯉キチ仲間にも見せるとやら。実際に錦鯉の飼育上の問題、錦鯉の疾病対策が主のようだけど。錦鯉を死なせるという苦い経験を誰もがしているようなのよ。こちらの気候は日本とは違うし、概して寒冷だから大変なのでしょう。養鯉ノウハウが圧倒的に不足しているわけ。大概のところ、皆さんこちらではコンクリート仕様のプール〔水槽〕で飼ってる。それだけでも十分に嬉しいわけだけど。ちょっと無粋。ローランドがお父さまの舞鶴の石庭づくりの池を褒めちぎってたでしょ。かなりの衝撃だったみたい。鑑賞魚としての錦鯉を愛で飼育するということは景観も重要なのだと、‘目から鱗’の発見だったのだと思う。池の水の澄んでいるのにも衝撃を受けたろうし。そこから庭のあちこちに穴を掘って観賞池づくりに挑戦する彼の‘格闘’が始まったというわけ。彼の許に届けられた濾過装置をどう設置すればいいのか、お父さまが図面にして解説して差し上げたんですって。さすが！設計図はお手のものだものね。まだまだこの先、此地で錦鯉のパイオニアとしてローランドの試行錯誤は続いてゆくでしょう。日本から時折訪ねてくる鯉業者が今ひとつ彼らにしてみれば頼りにならないという不満が募っていたみたいだし。Dr.川口先生との繋がりにはどんなに感謝されておいでか分からないのです。が、これ迄の贈り物の金額を思えば、本当にどうお礼をしていいものやらと思案に暮れておられます。私に相談するのですが、私もなんとも云い様がないし、私の取り持つ縁とは言え、もうお二人で親しく友情を発展させておられるのやし、私がとやかく言う筋合いのものじゃないと思いましたしね。でもあまりお金のこと気にしているので、もし経済的にそう出来ないなら、そうはしなかっただろうから、大丈夫って、まあ彼には慰めめいたことをつい言ったわけ。Dr.川口先生は開業医でいらして、【愛鱗会】京都府支部・舞鶴分会の会長というお立場でもありますし。経済力があるだけではなく、確か東大・医学部を出られたエリートなわけですから。語学力も達者でいらして、だから‘鯉キチ’としてこんな頼もしい助っ人を得たローランドの運というのもやはり凄いと思うわけ。こうした巡り合わせに、私なぞは内心、これって‘神様の仕業’かな？！って秘かに思ってたりするものだから・・。

ただ、Dr.川口先生から過分に物が届けられることのローランド側の負担も私には分かるの。偶然幸いにも私はシール家の全員にひじょうに好感を持てたので、これからもこのご縁を大事にしてゆくと思いますが、彼らにして貰ったことへのお礼はちゃんとするなり、これからも自分なりに背伸びしない交際をしてゆくつもりです。今回は、帰りのロンドンまでの切符（５ポンド以上もしたの！）は、ローランドの初めからの申し出通り、買っていただいてしまったけど・・。ローランドの話を聞けば聞くほど、日本でいろんな人が彼に最上等のもてなしをしてやったのだなって、呆れるような思いでした。それもこれも彼が言うところの‘チズコの取り持つ縁’とはいうものの、何やら空おっそろしいような・・。それだからって、私が図に乗って、彼らからの金銭的な援助に甘えたりすればおかしなものでしょ。彼らは全然金持ちってわけじゃないし、ごく普通の生活をしていて、それがたまたま第一級の‘鯉キチ’なものだから、ついついあれこれ四苦八苦してしまうことになるわけね。ポーリンは箪笥が欲しいって長年ぼやいているんですって！そういうわけなの！

こちらの【英国錦鯉協会】は、【愛鱗会】のように、緊密な全国組織としての形態には至っておらず、どちらかと云えば趣味人のサークル活動みたいに、ほんの一掴みの‘鯉キチ’

同士が親しく電話で（長距離！）、どうしてる？って、互いに情報交換しながら喋り合うといった具合だから、来年企画されているジャパン・ツアーにしても、殆ど知己とはいえない者同士のグループになるみたいだし。日本にわざわざ鯉の買い付けに行こうという、まあ云うなればそれぞれに‘私欲’が主なのですから、どうなることやら・・。航空会社との価格交渉の手前、ローランドは、そのツアーの人集めに頑張っていらして、こちらの活け花やら盆栽の協会の方へも口利きし勧誘に努めてるみたいなのよ。ぜひ成功させて欲しいわね。いずれ又、お元気で。　千鶴子より

1974年7月27日

お父さま＆お母さまへ

実はねえ、ここで打ち明けて申せばだけど・・。【英国錦鯉協会】に加入した意図というのが、純粋に鯉恋しさではなかったの、それもちょっぴりはあるけどさ。冷静なる目論見があってのことでしたわけ。先月、セント・ジョージ病院で就職のインタヴューを受けながら、そのこと当たった！って、俄然そう思ったのよ。というのはね、私随分と悩んでいたのは、なんと云っても、此地で人馴れしていないということなのでして、お母さまがいうところの私の生来的な‘内気さ’が邪魔をして、英語が十分ものになっていないという以上に、場慣れするのが難しくって、物怖じしてしまうというか、どうしても思ったとおりを率直に語ることに気後れを覚える。しばしば問題だと思っていたのです。それが片付かない限り、此地で専門職を得ることは出来ないわけだから、事はひどく重大だったのです。そんなわけで、ジャパン・ソサィティの会合にも勇気を奮って出席してきたのだし、【英国錦鯉協会】の人々との交際をも敢えて積極的にしてきたわけで。決して物見遊山じゃなかったわけなの。私の胸中にはかなり切迫したものがあったのです。それから、此地で専門職を得る場合、私の場合は幾つも幾つも問題が重なり合っているのですが、日本じゃちょっと思いつかない事柄の一つが、誰もここで口には出さないし、表面上はうまく‘棲み分け’していると言えば言えるからだけど、れっきとした階級意識とか人種差別意識があるということなの。日本人であることであちらに文句を言わせない、そのためには何かと云えば、経済的に余裕のある生活態度なわけなのね。ロンドン駐在の日本商社勤めの日本人は、ちゃんと本社からのお達しがあって、ロンドンで住まう地域、自家用車、服装すべて、或るレヴェル以上のものとすることが厳命されると聞いたけど。それはそれなりのちゃんとした理由があると思う。此国の‘格付け’に見合った、それも上のランクに入ることなのよね。そうじゃないとこれ迄の黄色人種、敢えて言うなれば、中国人(香港系)と一緒にされて軽視される恐れありというわけだから・・。こんなこと、日本に居れば、バカバカしいと一笑してしまうことだけど、此地で暮らす日本人の現実って、かつて明治政府の要人が海外視察に出向いた当時から大して進歩してない。無理解という蔑視の壁は厚い。だからこそ、一人ひとりが国家的威信を背負ってるぐらいの気概が求められる。事実、こちらの商社マンなんて、海外赴任手当が手厚いじゃありませんか？

私、就職のこと、早く決まればいいって思ってます。本当にちゃんとした専門職ってのは、いろんな面からのチェックがあって、あれやらこれやらと言われては、あっちこっちにまたまた手紙を出し、連絡するやらで、これで話が纏まらなかったら、荷物纏めて帰っちゃいたいと思うほど、バカバカしいと思うやろけど。実際は万歳！

をしていいだけの収穫があったわけなのです。と言うのは、まず第一に【タヴィストック】のミセス・ハリス（主任）に推薦されたのだということ。それから、ミスター・ブレンナーだけど、彼はセント・ジョージ病院・児童精神科病棟の全体では顧問の立場でもある方から伺ったのには、いつぞやの病院でのインタビュー〔就職面談〕の折、私が今後【タヴィストック・センター】で研修コースに所属してゆくことには何ら問題はないと会議で承認されたのだって・・。これって大収穫！それを伺って私ホッとしているの、実際のところね。考えてみれば、まだ一年生で、来期（10月）からサイコセラピストの入門の講義を受けることになっているのに、ちゃんとしたサイコセラピイの職に就くってのだから、話がどうもまあ一言で言えば、凄いってわけよね。そのインタヴューの折だって、児童精神科病棟の錚々たるお歴々が居並ぶところに私は入っていったのだけど、なんとも驚いたことに、それら紳士が皆一斉に立ち上がって私を出迎え、ドクター・ウォークが一人ひとりを私にご紹介くださり、にこやかな雰囲気のなかで会話が進められてという次第だったの。私は自分を‘小娘’ぐらいにしか思っていないものだから、もう気恥ずかしいを通り越して、深く感動した！日本の男というものは得てして、立場が上であればあるほど、若い女性に対してなぞはまるで権威づくで物を言う。私の場合は、大学院を修了してからほんのしばらく社会人でしかなかったせいもあり、お粗末な上司に苦労した覚えもないんだけど。でもこれほどの丁重な扱いを受けたことがないという意味で、強烈なインパクトがあった。生来的な資質の上に、よく躾けられている‘人間の上質さ’という点で、彼らは天晴れだ！完全に負けたとしか云いようがない。だから、彼らの一員に自分が果たしてはなれるんだろうかと、当然ながらも凄くもどかしく、頻りに気が揉めたわけなの。

しかしながら、私の直属の上司となるはずの、そのミスター・ブレンナーがおっしゃるに、電話での話しだけど、私は将来素晴らしいサイコ・セラピストになるんだってさ。彼、本気でそうおっしゃるの。実はこのお方、50を遥かに越えたご年輩の方で、心臓に異常を5年ほど前から抱えてらして、なんと云うか、自分が死ぬということを見詰めているというわけでしょうかしら。これ迄も【タヴィストック】の訓練生の個別指導なども多々手掛けてこられておいでのようなのだけど、どうも死ぬ前に若い有能なる人材を発掘し育てたいって思いに駆られておいでなのじゃないかと思うの。で、とても私に肩入れしてくださっておいでなわけ。どうやら彼は私を仕込んでみたいとのお気持ちらしい！！

まだ就職の件、事が決定したわけじゃないのに、Mr.ジョン・ブレンナーは2ヶ月間、夏季休暇でイギリスの最南端の島に行っちゃうというわけでして。どうもヨット三昧らしいけどね。私に本やら雑誌やら読むようにと‘宿題’を残して置いてくださって・・。有難いといえばいいのかしらねえ。ほんまにどないなことになりますやら・・！

私、まあ一年過ぎてみてようやく判ったことは、私の居る【タヴィスットック・センター】ってのは、『精神分析』でもかなり進歩的もしくは近代的というか、国際的にみてもその最先端を行っているらしい。クライン派の足跡を残す由緒ある精神分析のメッカでもあるわけですから、ここに私が訓練生として在籍している事実はかなり画期的と言える。私がこのままここを無事修了すれば、日本では本当に貴重な存在になることは間違いないわけです。その当人の背負う、いろんな困難を考えるなら、既にここに至ったということだけでも、かなり私のケースは奇跡的とも言える。とにかく私が最初で最後かも知れない

ともふと思った。それなのに、その全面的な経済的支援を親だけに賄ってもらっていることを思うと、私自身としても実に不甲斐なく、ひどく歯がゆくなるの。文部省海外給費生とか、渡英するのに他に手段はなかったのか、と今更にして後悔頻りなのだけど。だけど、ここに至ったことですら、いったい誰が想像できたかしら？あと一年間は、ちょっと他に手段がないわけで、ここで止めるわけにも引き返すわけにもいかないと、親に対して懇願するばかりで、それもまるっきり'脅迫'めいて聞こえるけど。それが実際であって、申し訳なくて、私は親に頭が一生上がらないわねえと内心思ってます。【タヴィ】の要請もあり、訓練生が担う課題も本格的になってゆくに従い、経済的な負担も覚悟しないといけない事態になりそう・・。殊に、『個人分析 Personal Analysis』の件なのですが・・。将来の見積もりをあれこれ、忙しくも'胸算用'〔足し算だったり、引き算だったり〕しているところなのです。

　　　　本当に誰に勧められたわけでもないのにねえ。私も驚いている。先日も、ミスター・ブレンナーが避暑先からお手紙くださってね。まあびっくりした！彼、ミセス・ハリスに直々に電話して、私の資格認定の件では力になってあげて欲しいと口添えしてくださったの！ミセス・ハリスからも、ことがうまくゆくよう望んでおりますって、手紙も来ているし。面接のインタヴューの時だって、ほら、そこの病院に、私のタヴィのコースの先輩が一人いるわけ。ジェニファというアメリカ人の女性なんだけど、その彼女も私の肩叩いて、しっかりねって言ってくれるし。もうなんと云うか、言うに言われぬ不思議な気持ちだねえ。2年掛かって、やっとここ迄来たかと思うと、ドカーッと疲れが出ちゃう感じ！就職は、９月になると思います。資格認定のこともあり、ビザのこともあり、時間が掛かるの。そんなことに無闇に苛立つことなく、レポート作成に精を出さなきゃと思っております。
それでは又。お元気で。かしこ　　千鶴子より

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1974年8月4日

お父さま＆お母さまへ

　　　　例の就職の件ですが、９月の始め頃から実際に出勤ということになりそう！いろいろ面倒なことがあったのですが。なんとあちらの皆誰しも、そうした事務処理の専門の人であるべき筈なのになんでしょう。まるで初めてのケースと言わんばかりに手間取って、お蔭でもう私はかなり神経消耗してしまいました。ところが、それはいいとして、やっとこさ確定となると、さて実際どうなることやらと、俄然慌て出して、セラピイの専門書を貪って読むやら。次第に事の重大さが解ってきて、我ながら可笑しくもてんやわんやです！
先月の生理が１週間も早くあったの。それは私としては異常なことであるのですし。最近、時折ですが、疲労感が異常に激しかったり。それで生の人参を今日買って食べたら、案の定先ほど、なんと鼻血が少し出たのよ。身体的に異常があるはずもなし、やはり就職の件やらいろんなことで神経が消耗してるし、大都会の真ん中に住んでいるということで慢性的に疲労が募っているのじゃないかと思う。ここで私も堂々夏季休暇を計画してます。「湖水地方」にちょっと行ってこようかと金策をしているところです。そちらから送金額１５ポンド届きましたし。日本のインフレも大変らしい様子で、私の方いつも金の無心で辛いのですが、有難く使わせていただきたく思います。
ではいずれ又。　　　　　　千鶴子より

◎追伸：お母さまの短歌、良かったよ！！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1974年8月15日

お父さま＆お母さまへ

こちらの『ジャパン･ソサイティ』のジュニア部門に「若竹会」というのがあって、私は会員になってるわけ。時折顔出しするのですが。メンバーには英国人で日本贔屓の篤志家の方がいらしゃるわけね。先月でしたか、そのお一人で広大なる農場を保有する地主さんが、私たちをご招待してくだったの。まあ時折そうした面白い企画があるのです。日本のこじんまりとした農家とも違う、総てが豪勢な感じなの。牧畜業ですから、まずは保有する敷地のだだっぴろいこと！地主で資産家でもあるのでしょうが、今回ご披露いただいた、日本の彫刻・絵のコレクションがほんと凄いものだったの。勿論彼のご自慢で、それを私たち日本人にぜひとも見せたかったということでしょうが・・。それやら彼が戦後日本で、戦災で焼け野原となった跡地の闇市でドサクサ紛れに二束三文で買い取ったという、日本風俗の写真アルバムが素晴らしかったの。そういうものに価値を見出す、彼の審美眼というか、目の付け所がそもそもどこか違う。感心したわ。ただ、私たちの誇る文化遺産の散失という観点からいえば、ちょっぴり悔しかったかも・・。でも私はただ無邪気に、たかだか£１.５０の格安の参加費で、このバスツアーを存分に楽しんだということになる。そこの農場の庭先で、柔らかな日差しを浴びながら振舞われたご馳走の数々の美味しかったこと！大皿に大盛りになって出てくる、どれもこれも勿論田舎料理なんだけど。それがなんとも美味だったの。久し振りでお野菜をいっぱい堪能した！私が私以外の別の誰かさんの人生を羨ましがるなぞ滅多にないことだけど。そこの農場主の方は恰幅のいい、どちらかというと寡黙なお人柄で、都会ではあまりお見かけしない、どっかりと地に足が着いた、まるできどりのない風体だったから妙に羨ましく思えた。なんだかちいちゃくて纏まった人生なんて、えらくつまらないって思えるぐらいに・・。農場を去る段に、バスの窓越しに彼に手を振ってお別れしながらも、二度と訪れる筈もない、行きずりともいえる‘風景’に深く愛着を覚え、妙に立ち去り難い思いをしたわけ！

それから、ちょっと嬉しいことがあったので書きます。何もかも逐一あったことを親に報告するというのはちょっと子どもじみているような気もしますけれど。何しろ私の生活には感激（！）するようなことが多いもので、一人で胸にしまっておくのは勿体ないじゃない？！

昨晩、その『ジャパン・ソサイティ』の会の秘書の方から電話があって、ちょっと意外だったので何だろと思ったら、翻訳の出来る人を探しているんだとか。なにやら或る会社の顧問になって、用事がある度に呼び出されるとかだけど、報酬はかなりいいようなのです。どんな内容のことを訳するのか分かんないので、何とも言えないけど。彼が言うのには、いろいろ雑多らしいけど。時間的に余裕さえあれば悪くない話でしょ。そのミスター･ロイドとは、ちょっとした折に私のやっていることを話してあったし、私の英語がいいからっていうわけで、会社に推薦してくださったというわけなのですが。私、いつかまあそういうこともあるかという気もしないでもなかったけど。あっちこっちに蒔いておいた種が芽吹いたという感じで、ちょっぴり嬉しい気分なのです。誰かにいつか私も調法がられてゆくんじゃないかと思うと、なんだか気持ちがフワーッとして軽くなる。それで、思い切って１週間ほど、明日から「湖水地方」近辺を旅してきます。では、この続きは又ね。

千鶴子より